

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4095500015		
法人名	社会福祉法人 清浄会		
事業所名	グループホームなびき		
所在地	福岡県宮若市下有木1507-1		
自己評価作成日	令和5年 10月 18日	評価結果確定日	令和5年11月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">http://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	令和5年11月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍以降、外出する機会は減少しているが、ホーム内では、食事の準備や片付け、洗濯物畳みなど生活リハビリを中心に役割を持ち、やりがいを見つけて楽しく生活出来る環境である。レクリエーションは、クラブ活動を通して体操や季節に合った歌、カラオケなど歌ったり、毎月の誕生会では、リクエストのおやつと一緒に作り、みんなで頂いている。園芸クラブは、畑に苗を植え、収穫を楽しんだり、花壇やプランターに花を植え手入れしている。絵画、色塗り、書道、手芸活動も行っている。行事は、新年会、節分、ひな祭り、花見、七夕など季節に合った内容を取り入れ楽しんでいる。コロナも5類となり、外出する機会が増え、地域行事などに参加し、社会との関わりを支援していく。医療面では、病院と連携を取り情報交換を密に行っている。ご家族様とも、毎月情報交換し、信頼関係を築いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

14年程前に職員全体で作挙げた理念の唱和はコロナ禍で中断しているが、入居者夫々の特技や能力に応じて多様な活動の場や機会を通じ、理念の具現化が継続している。家族とともにご本人を支えたいと毎月の暮らしぶりを電話で詳細に報告し、毎月発行しているホーム便りに行事案内、入居者の穏やかな暮らしぶりや笑顔満載のスナップとともに、問い合わせ先を毎回掲載している。医療連携に関わる指針を家族に説明し、今夏終口摂取ができるぎりぎりまでホームでの暮らしを支援し、入院後3日で逝去された入居者の家族からは「ここで過ごせて良かった」と謝辞があった。運営推進会議に参加している警察官から防犯に関する現状報告や防犯安全活動の報告もあり、地域や家族の理解や協力を得て、地域密着型サービスとして「自分達の身を守る」JBCP策定が期待できるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	mo	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

ユニット／事業所名 1号館／グループホームなびき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「皆でその人らしさを大切に笑顔で寄り添う」を理念として、毎日楽しく過ごしていただけるように心がけている。	14年程前に、職員全体で作挙げた理念の唱和はコロナ禍で中断しているが、入居者夫々の特技や能力に応じた活動の場や機会を通じて、理念の具現化に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	なびきホールに作品を飾ったり、地域の方の催し物を見物に行っている。どんど焼きでは、地域の方もお知らせし、お正月飾りなどを一緒に燃やし、無病息災、豊作、家内安全など祈願している。	地域のホールでのイベントや隣接する母体介護保健施設駐車場でのどんど焼きなどの参加や見学は恒例となり、今夏は神輿の打ち込みが披露され、介護実習生や見学生も受け入れるなど、交流が継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	GHみやわかでは、講師を招き研修などを行っている。苑内研修では、認知症についての講習も実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍では、書類のみであったが、5類となり2ヶ月に1回実施。事故報告や行事報告等行い、問題点や、意見、案内など頂き、サービスに活かしている。参加は家族、市担当、警察、民生委員、職員など。	前は家族や市担当者、警察官などの参加で開催され、面会の場である内玄関で議事録を公表している。7月のクラスターや行事、入居者の状況を報告し、警察官からは防犯に関する現状報告や防犯安全活動の報告があった。	さらに運営推進会議を活用するために、ホーム便りに運営推進会議開催の案内と併せて玄関で公表している会議録の閲覧をお願いされることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、状況や、取り組み等話し合いの場を設け協力関係を築いている。	市の担当部署に居室情報を定期的にFAXし、クラスター発生の経過について報告している。参加している地域同業者協議会GHみやわかを通じて、今後も連携や協力関係に取組む予定である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を中心に、身体拘束をしない取り組みを行い、転倒などリスクの高い方は、家族の承諾のもと、センサー、鈴対応をしている。玄関の施錠はせず、玄関開錠し、出入りのある場合センサーが鳴る。夜間帯は施錠している。	毎月開催されている身体拘束委員会に参加し、会議録を全職員が閲覧している。スピーチロックについても理解し、目線を合わせて本人が納得できる声かけに努めている。不適切なケアはその場で注意し合うなど、チームケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	苑と一緒に虐待防止委員会を設け、2か月に一度委員会で現状報告を行い、話し合いを行っている。また、アンケートなどをとり虐待がないか研修も行き防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	苑内外の研修で学び家族会等でも報告している。必要な方には支援を行っている。	現在成年後見制度活用の手続き中の方は、家族状況に配慮し、活用を地域包括支援センターと協議している。今後も入居時や随時、日常生活自立支援事業や成年後見制度活用を支援する予定で、法人研修に参加している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約者に説明をし家族等の不安や疑問点等を伺い十分な説明をして、理解、納得して頂いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族の状況説明時や面会時などお聞きし運営に反映している。	家族会は昨今の状況から中断しているが、面会時は内玄関に掲載したスナップで夫々の暮らしぶりを報告したり、毎月発行しているホーム便りに行事案内、入居者の穏やかな暮らしぶりや笑顔満載のスナップとともに、毎回問い合わせ先を掲載し、意見の表出を促している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等を行い意見や提案を聴く機会を作り反映させている。	定期的なミーティングだけではなく、課題がある度に話し合いの場を設け、内容は連絡ノートで全職員に周知している。各ユニットのトイレの使用頻度に応じて職員トイレを変更したり、休憩室のソファベットで足を伸ばして休める環境を整備している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実績評価を行い目標を持ち働けるよう、働きかけている。また外部研修参加も行っている。資格を取ることで給与もアップしている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集採用に関して、性別や年齢を理由に採用対象から排除しない。	育休や病休の職員もあり、30代～71歳までの男女の職員が常勤やパート、夜勤専従など夫々の状況に応じて勤務している。開設以来など永年勤務したり再入職する職員も多く、法人内外の研修受講や資格取得を支援している。職員が其々のクラブ活動を担当し、園芸クラブ担当の管理者は「白菜などに霜よけを掛けました」と、笑顔で楽しそうに話している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	苑内研修や外部研修等に参加するなどして人権活動に取り組んでいる。	法人年間研修に人権やハラスメントを組み入れ、定期的に虐待防止委員会を開催している。不適切な言動をその場で注意し合うには、永年勤務している自分達が模範とならねばと話す職員から、日頃の対応が伺えた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	可能な限り苑内外を問わず研修の機会を与えている。コロナでできない時はズーム研修も行った		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	GH宮若に加入して月例会や勉強会等積極的に参加し、さまざまなネットワークを広げ、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談で本人様の困りごとや、家族の困りごとなどよくお聞きし、理念に基きその人らしさを尊重しつつコミュニケーションを図り、安心して過ごせるように関係づくりをしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居以前の生活の状態を多く聞く事で関係性を把握し対応している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時、何が必要か見極め、より多くの会話の機会をつくり、かかりつけ医や多職種とも相談している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	担当職員が窓口的立場となり本人様の代弁者にもなりなじみの関係を築いている。一緒に暮らす家族のような関係であり、お互いに癒されたり、励まされる関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、月報告を行い日常の様子や体調などを家族の方と共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	こちらから連絡を入れる様に努める。思い出のある場所などの話を聞いたり、お連れ出来るよう支援している。	事前の予約や場所や時間、人数の制限した面会をお願いしているが、家族とともにご本人を支えたいと、毎月の暮らしぶりを詳細に報告し、入院している伴侶の面会や法事参加の相談に応じている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないように他の利用者様と一緒に関わってもらえる様にフォローしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も家族や本人様との関係は続いており、気軽に立ち寄り、相談事などフォローしたりして支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人アセスメント、モニタリングを繰り返し行い思いや意向の把握に努めている。困難な場合でも本人様の意向に添える様ケア会議で検討している。	夫々の家族構成や生活歴、職歴などをフェースシートに整備し、日々の関りや家族からの聞き取りで、思いや意向の把握に努めている。中には、家族との軋轢が心身の状態に与える影響に困惑することもあり、冷静な対応に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人とコミュニケーションをとり生活歴や馴染みの暮らし等把握している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状態を見て受診することもあり、有する力は、ホーム内における軽作業等の提供をして現状の把握に努めている。出来る、出来ない、どう支援すれば出来るのかなどミーティングを行っている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ケア会議を行いモニタリングにより提出された課題を職員で検討し現状にあった介護計画を作成している。	毎月担当職員が家族の面会時やモニタリング結果を電話で報告した折に伺った意向を、担当者会議で話し合い、現状に即したケアに努めている。その人らしさを大切にと、手工芸や習字、音楽、園芸、調理などのクラブ活動を通じて特技を活かす場や機会を設けている。	理念を具現化するために、実践されている個々の特技を活かす具体的な場や機会を盛り込んだ介護計画の作成を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一ヶ月毎のモニタリングにより担当者が気づき等を確認し職員間の情報共有やケアプランの見直しをおこなっている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	GHでできる支援はその都度実践できている。苑のOT、PT、STに指導を頂いたり、厨房の管理栄養士の協力を得て、栄養状態の悪い方の補助食品や、ゼリーの提供、訪問診療や、薬局など多方面に相談しながら支援している。。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの為外部との接触があまりできていないが、展示会に作品を展示や、見学したり、地域の神幸祭を鑑賞など出来る範囲で支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連携している医療機関を受診または訪問診療を受けられるよう支援している。	隣接する母体介護保健施設の看護師が日頃の健康を管理し相談に応じている。家族に選択してもらった2ヶ所の連携医療機関の訪問診療日をホーム便りに記載し、家族の安心に繋げている。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	緊急時や、体調不良など相談やアドバイスを頂いたり、訪問診療等相談している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の場合は速やかに介護添書を提出。退院の場合は看護添書により情報交換を行っている。SWとの連携もと日頃より関係作りをしている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族との面談を繰り返し行い、重度化した場合の方針など充分理解してもらえる様話し合いを行っている。またスタッフ間の情報共有に努めている。	入居時や状態に応じて随時、医療連携に関わる指針を家族に説明している。現在まで看取りはなく、今夏経口摂取ができるぎりぎりまでホームでの暮らしを支援し、入院後3日で逝去された入居者の家族からは「ここで過ごせて良かった」と謝辞があった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	苑内研修や消防との合同訓練などで、緊急時の対応や、事故発生に備えて訓練している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員を中心に、消防との合同訓練や、苑との合同訓練、グループホーム独自で、夜間帯や、日中などの訓練を協力して行っている。	消防署の指導で実施した避難訓練では、入居者の避難確認が課題となった。消防署から救急蘇生法の指導を受け、ホーム独自の連絡網を試動している。食料品やガスコンロなどの備蓄台帳を整備し、感染予防グッズは隣接する母体介護保健施設で備蓄している。	今夏のクラスター発生やホームの現状を踏まえて、自分たちの身を守る独自のBCPを策定するとともに、管理者の意向にエールを送るとともに、策定されたBCPをホームページで公開されることを期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	虐待防止委員会を中心に、言葉使いや、声掛けなど一人一人の人格を尊重し対応している。	日頃は氏名で呼称しているが、生け花や習字の指導をお願いする場では、「先生」と呼ぶ入居者もある。管理者は、入居者に「ありがとう」を伝える機会も多く、今春入職した職員の丁寧な言葉使いは、入居者だけでなく職員も優しい気持ちになると話している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活で利用者様が自己決定できるように環境作りをしている。好きな絵の色塗りをしたり、軽作業など本人様の希望を踏まえながら働きかけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴は入浴予定日に行っている。その日入りたくないなどの希望があれば中止し後日にしたり時間を変えるなど工夫している。塗り絵がしたい時など準備し、本人様の選ばれる環境づくりをしたり、本人のペースを大切にしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時、洋服を選んだり、敬老会などでは、お化粧をしたり、マニキュアをして、喜ばれている。コサージュや、ネックレスなどもされておしゃれを楽しんでいる。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おしぼりの準備や、洗い、食器拭きなどされたり、盛り付けもミキサーの方もかけた後形を整えたり栗ごはんなど栗の皮をむいて下さったり、芋弦の皮をとったり、梅干しの準備をしていただいたりしている。	法人厨房で昼夕の副食が調理され、給食委員会で希望の献立を検討している。誕生日には希望のカレーやうどんを楽しみ、ホーム便りにお好み焼きづくりや芋づるの下ごしらえを楽しむスナックが掲載され、今月は園庭の畑で栽培したさつま芋でスイーツ作りの予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全量摂取を目指して個々に合わせた食事形態にて提供。声かけを行い食事量、水分量の確保。夜間帯のお茶の配置などしているひともある。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアが不十分な方やつまりが多い方等仕上げ磨きを行っている。自己にてされる方も時々磨き残しがないかを確認している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自己にてトイレに行かれる方にはトイレの声かけを時間を見て行う。全介助の方も時間を見て交換(パット)全交換にならない様注意している。	声かけや誘導で座位での排泄を基本とし、夜間は暖房つきポータブルトイレも設置している。センサーで行動を察知したり、声をかけながら尿取りパット交換を支援するなど、夫々に応じた支援を実践している。メーカー社員からオムツなど当て方を学ぶ研修も開催されている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をしっかり摂取して頂くように声かけ毎朝の体操時しっかり体を動かされる様声かけしている。ウォーキングを決まった時間に行う方もいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は入浴予定日に行っている。その日入りたくないなどの希望があれば中止し後日にしたり時間を変えるなど工夫している。	個浴槽やシャワーチェアが設置された浴室は季節柄暖房を入れて、週2~3回の入浴を楽しめるように支援している。同性介助の希望に応え、好みのシャンプーやボディソープ、保湿剤を持ち込まれる入居者もいる。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	テーブル席で居眠りが続く時は自室で休まれるように声かけしている。夜間、眠れない時は職員とコミュニケーションを取ったり、屋間に散歩したり、日光浴などしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	3名にて間違いがないかを確認。特に新しく処方された薬を服用される時は異常がないか観察強化している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割をもって軽作業が出来る様心がけている。その方のもっている力を活かせるよう提供。また気分転換になるようレクリエーションを行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナだった事もあり外出は出来ていない。家族の協力を得て本人の希望を把握し外出は出来ている。(家族のいる家への)	隣接する介護保健施設のデイケアの出入りは控えているが、自然豊かなホーム周辺を散歩したり、入居者宅の梅もぎに職員が同行している。近々入居予定の方は、ホーム周りに桜の木があることが入居の決め手となっている。今月末、外出や正月の外泊に関する法人の方針が決定予定である。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の小銭を持参された方は希望に応じてジュース、果物など一緒に買いに行った職員が購入している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の所望で家族への電話があればやり取りができるように支援を行っている。年賀状や、暑中見舞いなど書ける方は書いて頂いている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間には季節ごとの貼り絵の展示や創作されたお習字などを展示している。どの場所も清潔を保ち居心地良く過ごせるよう努めている。光が入りすぎる所はオーニングをしたり、天井にカーテンをしている。	面会の場である内玄関には見事な張り絵が掲示され、天窓の陽光で明るい居間は其々のユニット毎にテーブルや椅子が設置され、昼食を食べたり食後も食卓で寛ぐ入居者の姿があった。園庭の金柑や花材で活けられた生け花や季節毎の貼り絵が、和やかな雰囲気醸し出している。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者様同士で、居室でお話をされたりしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、慣れ親しんだタンスや盆栽など、持ってきていただいている。本人様が居心地良く過ごせるよう工夫している。	ユニット毎にカーテンの色を変え、居空間違いを防ぎたいとドアの取っ手の横に両面に記名した立体的な表札を掲示したり、長目の暖簾を掛けた居室もある。どの居室も清掃が行き届き、家族からのメッセージや写真、観葉植物を飾るなど、その方らしい居室となっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な環境づくりをしている。一人一人のできることや、できそうなことを見つけ楽しみながらやってもらうことを実践している。部屋がわからない人は大きく名前を貼りだしたり、目印をぶら下げて自立を支援している。		